

ひまわり

桶川市青少年健全育成市民会議

第 28 号
平成17年3月15日
発行 桶川市青少年健全育成市民会議
編集 青少年健全育成市民会議
広報発行委員会
事務局 桶川市教育委員会生涯学習課
☎728-4111

第17回

桶川市青少年健全育成市民大会開催

平成十六年十一月二十日(土)、桶川東公民館三階大ホールにおいて、「第十七回桶川市青少年健全育成市民大会」を開催いたしました。

オープニングでは桶川西中学校吹奏楽部の皆さんによる素晴らしい演奏があり、続いて青少年育成アドバイザーの笹島千代子氏を講師にお招きし、「社会の宝をみんなで育てよう」をテーマとしてご講演いただきました。

市民会議表彰では、青少年健全育成のために活動を続けてこられた方々に対して、「青少年育成成功労賞」、青少年の模範となるようなあらゆる善行を行った青少年に対して「青少年善行賞」の表彰を行いました。

夏休みに取り組んだ、「私たちの主張」作文コンクールとポスターコンクールの表彰も行いました。表彰のあとには作文コンクール優秀賞の四作品の朗読がありました。

講師 笹島千代子氏のメッセージ

子育てはみんな初心者です。いろいろ失敗があっても当たり前、でも親の愛情が子どもにしっかり伝わっていて心のかげ橋が強いものであれば、子どもは健全な成長をしていくことでしょ。

人は自分の感情を言葉で表す事はむずかしいですね。子どもは幼いゆえになおさらでしょ。

昔の環境は厳しく、その中で子どもたちは、物やお金等に我慢して成長していました。今は全てが与えられているにもかかわらず、足りないと感じる子どもたち。そして親の愛情を求め、その欲求不満で起こされる問題行動が多くなっている様に感じます。不満を感じている子どもに対してスキンシップ(抱きしめる)やほめる言葉をかけてあげましょう。愛情はどんな薬の治癒力より強いと言われています。愛してあげましょう。

しかし、愛する事と甘やかすは違います。悪い事をした時は、しっかり対面して手をつないで目を見て、二度とやってはいけない事を心を動かすように伝えて下さい。親の真剣さは伝わります。大好きな親が涙を浮かべてしっかりと教えたならば、子どもの心を動かすでしょう。

子どもの生きる道にはいろいろな出来事が待ってます。子どもは自分の問題は自分で解決する能力を持っています。親はその能力をつぶさない事。歩く道を全て舗装工事してあげる事は出来ません。恥をかいたり負けたりして、厳しさを体験学習する事で人生を乗り切れるのです。親は子どもの心の痛みを受け止めるだけ。そして痛みを癒せる場所(あたたかい笑顔と美味しい食事)を作ってあげましょう。家族の中の太陽として、社会から預かった宝物をみがいて社会にお返ししましょう。

「家庭の日」ポスターコンクール 優秀賞



桶川東中学校 2年 堀内 悠



桶川中学校 2年 折原あゆみ



日出谷小学校 5年 前田 夏帆



日出谷小学校 5年 高橋 悟史

青少年育成功労賞表彰者

個人

桶川サッカースポーツ少年団	遠西 正
川田谷サッカースポーツ少年団	高柳 富雄
桶川ヤンキーススポーツ少年団	虹川 正章
桶川イーグルススポーツ少年団	岩田 勝彦
I KO剛柔流桶川空手道会	谷藤 勝利
ガールスカウト日本連盟埼玉県47団	石村 操
桶川市子ども会育成連絡協議会	石鍋 和子
桶川市青少年相談員協議会	井上 悟郎
桶川東小学校PTA	関口美奈子
桶川加納中学校PTA	金子 隆

桶川市人権擁護委員会	南 昇
桶川地区更生保護女性会	大塚 節子
鴻巣地区保護司会桶川支部	横山 仁司



善行賞

桶川東中学校三年 長野 裕介



「家庭の日」 ポスターコンクール入選者

優秀賞

「夜空でいろどる花火をみんなで」	日出谷小学校五年 高橋 悟史
「家族と仲よく！」	日出谷小学校五年 前田 夏帆
「家庭の日」	桶川中学校二年 折原あゆみ
「道しるべには「家族の手」」	桶川東中学校二年 堀内 悠

佳作

「きれいな花火大会」	桶川北小学校四年 蒔田 幸穂
「みんな大きくなーれ!!」	川田谷小学校四年 小峰 梓
「地球家族みんな仲良し」	朝日小学校六年 柴田 裕基
「幸せ」	桶川東中学校一年 柳澤 菜穂
「ふるさとへ」	桶川西中学校三年 杉本 明
「家庭の日」	桶川東中学校三年 佐藤 彩香

「私たちの主張」 作文コンクール入選者

優秀賞

「夏休みに学んだ事」	朝日小学校四年 宮内奈美穂
「平和について考えよう」	桶川北小学校六年 内田 未来
「無人島で暮らしたら」	加納小学校六年 栗原 成美
「大人と子どものかげ橋として...」	桶川東中学校一年 高取 美佳



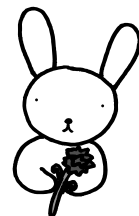
佳作

「私のお父さん」	桶川北小学校四年 長尾 梨咲
「私の家族」	日出谷小学校五年 居木 彩夏
「感謝の気持ちを伝えたい」	桶川北小学校五年 後藤 稚菜
「強い心を胸に」	桶川中学校一年 荒井 達哉
「僕の部活動」	桶川中学校三年 照屋 健
「大切な命を守るために」	桶川西中学校三年 渡部 裕佳



優秀賞作品紹介

「私たちの主張」作文コンクールでは、市内小中学校児童生徒から約五〇〇点の応募があり、厳選の結果入選者十人が決定しました。その中から優秀賞を受賞された児童生徒の作品四点を紹介いたします。



夏休みに学んだ事

朝日小学校四年 宮内奈美穂

きさい町にある環境科学国際センターは、今の地球環境や私たちの暮らしにかかわる環境問題をゲームや体験を通して解りやすく教えてくれる所です。

たとえば、平きん的な四人家族の一年間のゴミの量。リサイクルできるゴミは意外に少ない事や、その残ったゴミは全部燃やせないで残ってしまう事。実際、目で見ると

「えーっ、こんなにいっぱいあるの?」

とびっくりします。そこにんじしてあるのは、一年間の量だけなのです。私の家は、おじい

ちゃんやおばあちゃんもいて六人家族。だからもつと多いはず。

ここでは「きれいな川の生き物をしらべよう」と言う体験教室にも父と参加しました。メダカやカニが見られるのかと思ったら、虫がシャーレに入れられていて気持ち悪かったし、こわかったです。でも、先生のお話を良く聞いてみると、この虫たちは、水がきれいか、きたないかをみわける大切な資料になるのだそうです。らん山のとき川というきれいな川へこの虫を取りに行ったことを話してくれましたが、思ったより虫が少なかったつて。きれいだと思っていた川が意外によくてきているのかも、と思いました。いまま

で気づかずにやっていたけれど、みそ汁を二百ミリリットルを台所で流すと、そこにフナやコイが、住めるようになるためには三百リットルの浴そつで四・七杯の水が必要なんだそうです。牛乳は、同じ二百ミリリットルで浴そつ十杯分。油は五百ミリリットルすると何と、三百三十杯必要なのです。むやみに残して流してはいけないんだと思います。

それから西川口にあるSKI Pシティの、「エコ・消費者」体験教室に参加しました。三日

間あり一日目はグリーンコンシューマーについて勉強をしました。買い物を通じて環境にやさしい行動をとる消費者をグリーンコンシューマーと言うのだそうです。

一、環境への負たんが小さいものを買う。
二、命や健康にやさしいものを

買う。
三、ゴミの少ないものを買う。

具体的に言つと、レジ袋を使わないようにする。商品についている表示を見て、保存料、着色料のないものを買う。パツクしたものにしてプラスチックトレーに入れて、なおビニールに入っているものはさける、などですが、他にもたくさんあります。消費者が変わる事でお店が変わり、企業が変わり、そして社会が変わっていくということです。

わたしは、いままでそんなことを気にしないで買っ物をしてきたけれど、消費者、ひとりひとりが気にしながら買っ物をする事で、地球環境も良くなつていくなんて。みんなにも知つて欲しい、実行して欲しいと思います。

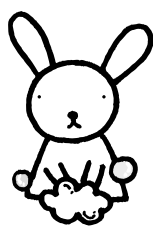
一日目は電池を作りました。豆電球が光った時は、とてもうれしかったです。

二日目は、リサイクルおもち

や(牛乳パツクで作った「天登りの竜」づくり。三つの牛乳パツクを使って作りました。箱のふたを開けると、ぴよんと飛び出すおもちゃで、弟がとても喜んでくれました。もう一つ、ガス管でペンダントを作りました。ガス管で?つてびっくりしたけど、ガス管が細かいきれいなビーズみたいになっていて、それを並べて形にしてとがして作りました。

三日目は、料理。ドライカレーとマシユマロツクを作りました。カレーは、残った野菜を使い、にんじんはきれいに洗って皮ごと使います。おいしく出来ました。マシユマロツクは残ったお菓子にマシユマロツクを使って、新しいお菓子に変身させます。どちらが残った食材をむだにしない料理です。お菓子はおみやげにしたら、母が「おいしいね。」と言ってくれてうれしかったです。

私は、この体験を通じてゴミを出さない事の大切さ、出さない工夫を勉強しました。私にできる事は実行していきたいと思っています。



平和について考えよう

桶川北小学校六年 内田 未来

私は八月六日にテレビのニュースで広島島の原ばくいれい祭のニュースを見ました。今まで日本に原子ばくだんがおとされたことは、少しか知っていました。が、このニュースを見てもつと原ばくについて考えてみようと思ひました。原ばくは昭和二十年八月六日広島上空で投下されました。今でも世界遺産として残されている、原ばくドームの写真を見た時はとてもおそろしい気持ちになりました。私の母は、実際に原ばくドームを見たことがあるもう二十年も前に見たことなのに今でもよく覚えているそうです。その時、母は原ばくのこわさと広島の人々の悲しみ、そして何より平和の大切さを感じたそうです。

八月六日の新聞の夕刊に、実際に原ばくの被害にあつた方の話のつていました。五十九回目を夏をむかえ、原ばくにあつた人たちの平均年れいは、七十二・五才になるそうです。夕刊にお話のつていた方も、八十五才になり、今まで続けてきた

いれいの日水をささげる行事を若者にゆづつたそうです。若者は自分は原ばくを体験したわ

けではないのに平和への願ひを強くもつていてすこく立派だと思ひます。これからもどんどん原ばくにあつた方が高れいになつていくので、この若者のように平和の願ひをひきついでくれる人がたくさん必要だと思ひます。そうしなければ、原ばくのおそろしさはいつの間にか忘れさられて、人間はまた同じあやまちをしてしまつと思ひます。原ばくは、今までに日本にしか投下されていません。六十年前の日本は、戦争をたくさんしていたので原ばくを投下されたのだと思ひます。そのせいでなんと二十三万七千六十二人の尊い命がうばわれてしまいました。原ばく一つでこんなにぎせいで者をだすなんて本当におそろしいです。人間が人間を殺すために原ばくを投下したと思うととてもかなしい気持ちになります。でも広島は、この苦しい経験を忘れることなく世界の人々に平和の大切さを発信し続けています。同じように八月九日に原ばくを投下された長崎も原ばくの被害のおそろしさや悲しみを世界中に知つてもらふ活動をしています。

原ばくの事を調べていてサダコさんという女の子のことを知りました。サダコさんは、原ば

くが投下された時はケガを負わなかったのに十年たち私と同じ十二才の時に白血病になり十二才で死んでしまいました。原はくはその時の被害だけでなく、サダコさんのように後になって人々を苦しめる事も分かりました。サダコさんは私と同じ年なのにこんなに早く死んでしまっなんてかわいそうだと思います。

今回、原はくの事を調べて戦争のおそろしさを改めて知ることができました。でも今も世界では戦争がおきている国があります。原はくを投下された地球上のただ一つの国として、日本人の私には世界中に平和を伝える役割があると思います。これからも平和について学び二度と原はくがおとされないように戦争をなくしていきたいと思いません。いつか自分の目で原はくを投下された広島をみてみたいと思います。

無人島で暮らしたら

加納小学校六年 栗原 成美

「無人島で暮らしたら」四年生の時に国語の教科書にのって、それはそれは、あこがれたものだった。それが今年の夏本当に実現するなんて、夢にも

思わなかった。

「米だけかついで、無人島」それがキャッチフレーズだった。今までキャンプには何回か参加してきたけれど、「米だけかついで」の言葉に心が動かされた。いつもいつも重い荷物をずっしり背負って参加してきたので、この言葉にうつとりさされた。「何て、軽くていいんだろ?」楽しそうだなあ。」

ところが、そんな考えはあまかった。案内状が届き持ち物の欄を見ていたら、すごい持ち物の量だった。無人島だからこそ普通のキャンプとはちがひ、自給自足のための色々な物が必要だったのだ。しかも「トイレも有りません。まずトイレ作りから始めます。」と書いてある。

気を落として、すごく悩んでいる私を、母が見て笑っていた。結局、今までで一番重い大きいリュックになった。一つのリュックではおさまらず、ハイキングのためのリュックにも荷物を入れることになり、歩くとき気持ち悪くなるほどだった。

広島に着き、大黒神島に渡る。いよいよ実際に無人島での生活が始まった。お風呂もトイレもなく、テントも全て自分達で作る事から始めるのだ。一番厳しかったのは、やはり

トイレだった。穴を掘り、竹を組み合わせて立て、ビニールシートで囲い、足場に二枚の板をしいただけだ。毎日、お風呂に入りシャンプールし、普通のトイレに入るといって、いつもの日常生活が無人島で生活を始めた私には、まるでパカンス生活のように思えた。朝五時に起きて、自分達が食べる魚を、自分達で釣る。釣れなければ、おかずはない。ナイフを使い、食器や箸も竹細工で作った。毎回、飯ごうで、ご飯を炊き、作ったナイフで野菜を切りスープを作る。海水も大いに利用する。おにぎりは海水をかけてにぎる。飯ごうは、海水と海の砂を利用して汚れを落とし、それを再び使うのだ。

ペットボトルなどの物を冷やすのは全て川だ。冷蔵庫より効果的な冷たい水が流れていた。トマトを食べる時は、海水をつけて食べた。トマトが苦手な私でも、丸ごとのトマトをおいしく食べてしまった。

ぬれた物をかわかすのは堤防だ。上に置くだけで日当りが良く一時間あればパリッとかわいてしまう。歯みがきも海水で行う。今は塩の歯みがき粉が売られている位で、「どうかな?」と皆で、わいわいやった。



この無人島には、猪もでるそう、私も夜トイレに行った時すごい勢いで走っていくのを見た。こわかった。猪は人の声や火を嫌うというので、ラジオやたき火で猪よけをしていたのもかわらず夜、飯ごうを持っていかれた友達がいて、がっかりしていた。

自然の力で困る事もあるけれど、自然に大いに助けられて生活していた。もつと自然の力をかりてもつと自然を利用して人間が暮らしていたら、地球はかなり救われていただろう。五泊六日の滞在だったが大変だった分、参加した仲間皆で助け合い、友情が深まった。

水にも限度があり、毎日、自給自足をするために忙しく、仕事になれない私達は時間が必要で、なんだかとても忙しかった。必要なのは時間で、あまっていたのは、お小づかいだけだった。毎日、どんな時でもお風呂やシャンプールを欠かす事が出来なかつた私が、「大丈夫かな?」と心配していたのに、なれとは

すばらしいもので、人間は結構たくましいと思えた。トイレだけは、最後まで厳しかったが、すごく悩んだけれど、参加して良かったと今は思っている。大変だった分、それが良い思い出になった。

コンビ二で、手軽にお弁当が買える時代、ごう華ではないけれど、素朴な手作りの食事は別のもものように感じるほどなんでもおいしかった。手つかずの自然も美しかった。

近代的な快適な生活もいけれど、それを求めすぎて、人間が自分勝手になりすぎているような気がする。人間にも地球にも優しい生活が大切だと思う。その時は必死で、目の前の事をこなすのに精一杯で気がつかなくなつたけれど、貴重な体験でとても楽しかった。ぜひ又、行きたいと思つている。

大人と子どものかけ橋として

桶川東中学校一年 高取 美佳

私は今年、中学生になった。そして、子ども会を卒業して、ジュニアリーダーとなった。ジュニアリーダーになつたきっかけは、六年生まで子ども会に入

っていて、その延長で何となくやってみようかな、という軽い気持ちだった。でも、実際にやってみて、ジュニアリーダーは大人にも子どもにもいなくてはならない存在だし、やりがいがあつて、そこから学ぶことがたくさんあることがわかった。

ジュニアリーダーの役目は、主に、ゲームの指導だと思つていたが、子どものサポートをしたり、集団のマナーを教えたり、大人のお手伝いをしたりする。それだけではなく、仲間に入れない子を積極的にさそい入れることもするのだ。私は、いくつかのキャンプに参加して、ひとりぼっちになった子を仲間に入れるように、仕向けてあげた。「もうじゅうがりに行こうよ」というゲームでは、周りを見ながら人数が合うように、自分が出たり入ったりして、みんなが楽しめるように場を盛り上げていった。

ジュニアリーダーになつて学んだことは、たくさんある。以前より、声が大きくなったこと、みんなの前で自分の意見が言えるようになったこと。そして、今までは同級生とばかり行動していたのに、いろいろな学年の子や他の地区の子と行動して、仲良くなれたことである。今ま

では、みんなの前で自分の意見を言うことがあまりなかった。でも、行事があるたびに、言わなければならぬことがあるし、大きい声で話さなければ、みんなに伝わらないので、自然とできるよつになつた。自分から話せるよつになり、ニックネームで呼ばれ、みんなから頼りにされるよつと、とつてもうれしくなる。そしてそんな時、もつとがんばるよつと思つた。

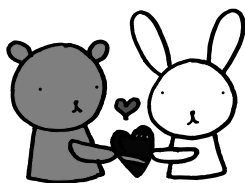
大人と子どもの間にいる私から子どもに、言いたいことがある。子どもはよく、「大人つて、ウソつきなんだよ。おこらないから話してごらん、つて言つていても、絶対おこるんだもん。」

と、言うけれど、信用できる大人もいる。私は、今年の夏、すてきな大人たちに出会つた。私が見えぬふりをしないで、助けしてくれた人がいた。また、大切な物を落としてしまった時、暗くなるまで一緒に探してくれた人がいた。そして、その落し物を拾つて、届けてくれた人もいた。この人たちは、みんな親切で、信用できると思つた。だから、大人は、ウソつきな人ばかりではないことをわかつてほしい。新潟で集中豪雨があつた時、

たくさん大人たちがボランティアで、泥まみれになつて復旧作業を手伝つていた。その姿を見て、私は感動した。こういう大人もいるんだなあと思つた。

次に、私から大人に、言いたいことがある。それは、子どものことを早く早くとせかさないで、見守つてほしいということだ。大人の中には、子どもの気持ちがあつていない人がいる。その人たちは、子どもに手出し・口出しして、リードしてしまふ。子ども会は、「子どもが主役」のはずなのに、子どもは大人の言いなりになつてしまつては、自分で考える力が育たないのではないか？だから、大人は子どもに、時間を与えてやつてほしい。子どもには、たっぷり時間があるのだから。

最後に、中学生である私は大人と子どものかけ橋として、両方の立場を理解し、みんなから喜ばれるような行動をしていきたい。そして、そうすることによつて、自分自身も成長してきたい。



昨夜から今日の天気予報は、雨の確率が高いとされてしました。朝、目を覚ますとやはりの中、それもかなり大きな雨音が聞こえます。雨天決行とはいふものの、参加者はどのくらい集まるのだろうかと不安をいだきながら会場に向かいました。すでに受付を済ませた方も何組か、そして次々と参加者がやつてきました。

この天気を物ともしない見事な人々に勇気づけられ、いよいよ親子ふれあいウォークがスタートしました。

親子ふれあいウォーク

今年も加納地区（9月26日）、川田谷地区（10月3日）に分かれて実施いたしました。

さて今回は、雨による冠水で急ぎよルートを変更した箇所もありましたが、農業センターから江川を渡り桶川西分署を経て県道を横切り、熊野神社へと向かいます。そこでクイズを解いた後、富士見ホテル親水公園で青少年相談員によるレクリエーションがあり、チエックを受けた参加者は、城山公園でクイズを解き、ゴールであらたな問題にチャレンジして終了です。

参加された方、問題は難しかったですか。現地でのクイズの他にやつとたどり着いたゴールで更に質問なんて、少しいじわるだったでしょうか。

今年でこの企画も四回目となりました。初回の中山道を中心としたウォーキング、そして翌年からは加納地区と川田谷地区に分かれ、いずれも桶川市内の史跡を巡り、それにまつわるクイズに答えながら親子の触れ合いを楽しむという趣向です。四回目となると回る史跡も底をついてくると思われませんが、そのつど違う場所を訪れ、桶川の歴史の深さを実感しました。

雨の中、親子励まし合いながら歩いた方々、意外にも元気なお子さんの体力に、ついて行くのが大変だった親御さん。クイズではちよつぱり余裕のお父さん。参加者の皆さんそれぞれにとりまして、思い出深い一日になったのではないのでしょうか。次回はぜひ、秋晴れのどかな風景の中を歩きたいものです。

青少年育成埼玉県民会議表彰

平成十六年十一月十九日、埼玉県知事公館にて青少年育成埼玉県民会議表彰が行われました。桶川市からは、島村和男氏が青少年育成成功労賞を受賞されました。そこでこれまでの島村氏の主な活動を紹介させていただきます。

島村氏は、昭和六十三年十月から平成十六年五月までの十五年以上の永きにわたり、桶川市青少年健全育成市民会議の副会長及び運営委員として市民会議運営の発展に寄与するとともに、青少年の健全育成に尽力されました。

また、平成十六年十二月まで

桶川市教育委員会委員長を歴任するなど、あらゆる分野から青少年の健全育成に携わってこられた方です。



上田清司埼玉県知事 島村和男さん

市民まつり 非行防止 キャンペーン

桶川市青少年健全育成市民会議では、毎年十一月三日の市民まつり中、山道歩行者天国で、非行防止キャンペーンを行っています。穏やかな秋空のもと、今年も関係各団体の多くの方々の協力を得て市民まつりにぎわいの中、青少

年の非行防止を呼びかけながら、リーフレットに風船やボールペン等を添えて配布しました。歩行者の皆さんに気持ちよく受取っていただき、リーフレットに目を通していただく姿をみてこの活動が少しでも非行防止に役立てればと願いました。



「埼玉県青少年健全育成条例」が改正になりました。

青少年を取り巻く環境の変化に対応するため、「埼玉県青少年健全育成条例」と同施行規則が改正され、二月一日から施行されました。

なお、この条例の「青少年」は、十八歳未満を対象としています。

改正のポイント

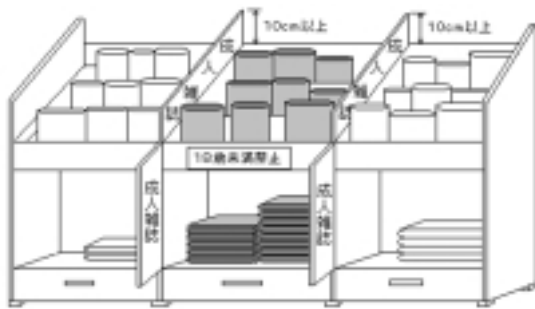
1 有害図書などへの規制強化
青少年が有害図書を閲覧できないようにするため、コンビニエンスストアや書店などで、一般図書と有害図書との区分陳列の基準を設けました。

2 青少年の深夜外出に関する規制の強化
深夜午後十一時～午前四時における青少年の入場を禁止する施設として、これまでの「カラオケボックス」に加え、「マンガ喫茶」と「インターネットカフェ」も対象とします。

また、コンビニエンスストア、ファミリーレストランなど深夜営業を行う事業者を対象に、深夜に施設・敷地内にいる青少年に対し、帰宅を促すようにする努力義務を新設しました。

3 性の逸脱行為に関する規制の強化
青少年から着用した下着などを買ったり、売買を仲介したりするなどの行為を禁じます。また、青少年を性風俗店などで接客業務に従事するよう勧誘することなども禁止します。いずれも違反者には三十万円以下の罰金を科します。

4 インターネットの利用に関する努力義務の新設
保護者などに対して、青少年がインターネットを利用するに当たり、性的表現を含む情報や、残虐性を助長する情報、犯罪を誘発する情報などを閲覧・書き込み・掲載させないようにする努力義務を新設しました。



区分陳列の一例（有害図書などから10センチ以上張り出した仕切り板の間に、有害図書を陳列する方法）

問合せ先 埼玉県青少年課
電話 〇四八 八三〇 二九一四
FAX 〇四八 八三〇 四七五四
埼玉県青少年健全育成条例・同施行規則については、県のホームページでご覧になれます。
URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/A01/BR00/seisyounen/aopage.htm>

編集後記

奈良市で起きた小学一年生の女児誘拐殺人事件は、皆さんの記憶に新しい事と思います。幼い子どもたちが、事件に巻き込まれたり、事件を起こしたり、親としてとても心が痛みます。

私たち大人も、どのように子ども達を守ったら良いか？どのように子ども達を育てたら良いか？など、情報を得る場として、皆さんの講演会が開催されています。いろいろな方々のお話を聞いて、元気をいただき、日々の生活の中に活かしていけたらと思います。皆さんも是非参加してみてください。

